

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671300242
法人名	医療法人社団 須田医院
事業所名	須田医院グループホーム
訪問調査日	平成 21 年 1 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 4 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	671300242		
法人名	医療法人社団 須田医院		
事業所名	須田医院グループホーム		
所在地 (電話番号)	山形県上山市美咲町一丁目2番18号 (電話) 023-673-7900		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	16人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	64 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須田整形外科医院 石崎歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域と家族と共に利用者が生き生きと過ごせる空間作りを行う。」という地域密着型サービスとしての理念を掲げ、地区で開催される各種行事への参加、地域住民ボランティアの受け入れなどが積極的に行われています。また、利用者の状態変化や緊急時の際の連携、心身機能の維持・改善を目指すリハビリテーションの継続など、「併設医療機関とホームが棟続き」という特性を生かしたサービス提供にも力を入れています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日頃の暮らしぶりや行事の様子を記入した「お便り」が個々の家族に毎月送られており、また、体調に変化があった場合の電話連絡や面会時の報告も行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに職員から記入してもらい、話し合いを持って自己評価を行っている。また、評価を通して日頃の自分たちのケアの振り返りも行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施されており、外部評価結果や日頃の取り組みなどを報告し、参加者から意見を出してもらうようにしている。また、会議内容を反映できた例とし歌謡ボランティアの受け入れがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会の際に家族から出された話、また、意見箱で寄せられた意見について、職員間でも話し合っ運営の改善につなげている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	市内や地域で行われる行事へ参加したり、中学生の職場体験やボランティアを受け入れて地域との交流を深めている。また、学校の運動会や夏祭りにも招待されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念に加え、地域密着型サービスや各ユニットの理念を職員全体で作りに上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をより具体的にしたユニット目標をつくり、自分たちでつくりあげた理念を実践できるように工夫している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市内や地域で行われる行事へ参加したり、中学生の職場体験やボランティアを受け入れて地域との交流を深めている。また、学校の運動会や夏祭りにも招待されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに職員から記入してもらい、話し合いを持って自己評価を行っている。また、評価を通して日頃の自分たちのケアの振り返りも行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施されており、外部評価結果や日頃の取り組みなどを報告し、参加者から意見を出してもらうようにしている。また、会議内容を反映できた例とし歌謡ボランティアの受入れがある。		

山形県 須田医院グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する研修などに参加して、市の担当者と連携しながらサービス向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日頃の暮らしぶりや行事の様子を記入した「お便り」が個々の家族に毎月送られており、また、体調に変化があった場合の電話連絡や面会時の報告も行われている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の際に家族から出された話、また、意見箱で寄せられた意見について、職員間でも話し合って運営の改善につなげている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があった場合には、馴染みの関係が早く作れるよう「新任」「現任」の職員がペアになり、利用者に影響を与えないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員それぞれの経験等を考慮し、外部研修や交換研修に参加しており、研修後には職員全体への報告がなされている。また、各担当者がそれぞれのテーマについての講師となって、職場内研修を実施している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各グループホームとの交換実習が行われており、互いに交流しながら、ともにサービス向上が図れるように取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝の掃除、食事の準備や後片付けなどを入居者と職員が共に行い、互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始時に本人や家族の意向を聞き、また、入居する前に利用していたサービス事業所等からも情報を得ながら、一人ひとりの意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員、かかりつけ医等の関係者とも話し合い、一人ひとりの意向に添った介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直されており、また、状態に変化が見られた時には、本人や家族と職員で検討した内容を反映させ、それぞれの状態に合わせた介護計画が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	同じ法人が運営している棟続きの病院が利用者のかか りつけ医となっているため、個々の状態に合わせた必 要な対応が可能な体制ができあがっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	毎週1回、入居者一人ひとりについて主治医とスタッフ が現在の状況を確認し、職員全員でも状況を共有して いる。また、家族と連絡をとったり、話し合いをもったりし ながら、その後の方針について共有するようにしてい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応についての話 し合いが行われており、個別記録は来訪者の目に触れ ない取り扱いがなされている。また、留置カテーテルの 蓄尿パックは、個別に作成した袋の中に入れ、他の人 の目に触れないよう工夫されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	適切な生活リズムを考慮した大まかな日課はあるもの の、入居者それぞれの体調や希望に合わせて過ごす ことができるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれができることを考慮して、調理、味付け、後片付けなど、職員とともに楽しく話しながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームに併設しているデイケアの「桜風呂」を利用した入浴がで、また、各ユニット内の浴槽も利用者の希望があれば使用することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のそれぞれのできることや好みのものが把握されており、畑での野菜づくり、造花づくり、洗濯物たたみなどを、利用者と職員が一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や希望を聞きながら、近所の商店やスーパー、理美容室等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は鍵をかけることなく、見守りを行いながら安全に過ごせるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練は4月と11月に実施されている。	○	現在の取り組みに加え、夜間の火災発生を想定した訓練の実施、また、火災以外の災害発生に対する取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気の症状や心身の状態に合わせて、「お粥」「刻み」「とろみをつける」など、それぞれの利用者が食事等を摂取しやすいように工夫している。また、毎日の食事と水分の摂取量は表に記入し、栄養や水分摂取の状態把握にも役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間内のソファや畳を利用して、利用者が思い思いの場所で寛げるようになっている。また、ユニットの入口やリビング内には季節の飾りつけや、掛軸があり、季節を感じることができるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人が使っていたタンスやテーブル等が持ち込まれ、また、行事や家族の写真も飾られた、居心地がよく安心できる居室になっている。		